上智大学短期大学部
SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

令和5年（2023年）12月8日

通信　第100号

編集・発行　上智大学短期大学部

創立50周年を迎えて

学長　山本　浩

上智大学短期大学部にとって今年は創立50周年の年にあたっており、12月2日には創立50周年を祝う式典を開催し、併せて記念の講演とパネルディスカッションを行いました。

上智大学短期大学部は1973年4月に開校したときには上智短期大学という校名でした。この校名は2012年に現在の上智大学短期大学部に改められましたが、それ以外は、入学定員が250名で収容定員は500名であること、英語科だけの単科の女子短大であること、神奈川県秦野市の秦野キャンパスに所在していることなど、50年間何も変わらず今日に至っています。

半世紀という長い年月のあいだ、変わらなかったのは定員や学科構成だけではありません。学校にとって何よりも重要な教育も変わりませんでした。昔も今も学生たちは英語をしっかりと学びたいという強い意欲をもって入学してきますので、短期大学部は、学生たちの意欲に応えるカリキュラムを編成し、徹底的な英語教育を行ってきました。多くの学生たちは、短期大学部の英語教育を受けて十分な英語力を修得し、卒業していきました。また、数多くの英語科目だけでなく、人間学、哲学、倫理学、社会学、教育学、歴史学、文学、音楽、文化人類学、平和学、経済学、法律学、数学など様ざまな学問分野の科目も開講されてきましたので、学生たちは幅広い教養を身につけることができました。

もう一つ短期大学部の教育で忘れてはならないのはサービスラーニング活動です。サービスラーニングとは、授業で学んだことを地元社会でのボランティア活動に活かしていくことで、短期大学部の学生の多くが長年にわたって秦野市の小学校で英語教育の手伝いをしたり、秦野市に住む外国籍児童の家庭教師ボランティア活動をするなどして、優れたサービスラーニング活動を行ってきました。

すでに皆さまご存じのように、短期大学部を運営する学校法人・上智学院は、諸般の事情から2025年度以降、短期大学部の学生募集を行わないことを決定しました。まことに残念な決定ではありますが、短期大学部としてはこれまでの50年間と変わることのない水準の教育と研究を維持していくつもりでおります。

50周年記念　退職された先生方からのメッセージ

羽塲　勝子

創立50周年を心からお喜び申し上げます。

聖マリア修道女会が、上智短期大学の創立に協力すると聞いた時、私達（シスター達）は、カトリック教育を女子の大学教育の中で実現できると大喜びしました。そして、創立から現在に至るまで、シスター達がバトンをつなぎながら全卒業生と関わることができたことを感謝しています。

聖マリア寮での学生との共同生活の体験も、私達にとっては宝物です。

退職後も、卒業生との交流が続いています。短大時代に学生と一緒に始めた「レストナック教育支援」が、昨年、NPO法人になり、多くの卒業生と、在学時代に学んだ“For Others, With Others”を実践（国際援助活動）しています。

Melvin Andrade

The 50th anniversary of Sophia Junior College Division brings back many memories to me. Over the many years I taught here, I was always impressed by the students' energy, curiosity, and hard work. They always did their best to master English and communicate their ideas, opinions, and feelings. Besides that, I was impressed to see them enthusiastically participate in community service and circle activities. In their classroom and out-of-class experiences, they learned many valuable things working cooperatively with their classmates. The English Poster Festa, Christmas Party, and other events were always a joy to experience. I hope all our graduates shine brightly like the sun throughout their lives bringing joy to others. The Sophia spirit of “For Others, With Others” lives within all of you. I will never forget you!

桝田　絢子

上智短大がまだ建設中の時、キャンパスを見に行ったことがありました。山が好きな私には丹沢山脈が身近に広がる魅力的な所でした。当時はまさかそこで教職に就くとは思いませんでしたが、3期生から人間学を教えました。準備として四ツ谷の先生方が行っていた「新しい人間学」のテキスト作りの研究合宿に参加しました。授業ではどんな質問が出るのか、果たして学生が理解してくれるのかと心配もしましたが、短大生は、それは素直で水が地に染み通るように吸収してくれて、学生のレポート等から私自身が一番学びました。喜びの思い出です。

飯田　純也

平和を祈る

振りかえると想い出はつきない。現在、上短で非常勤として英文学概論をはじめ詩、演劇、映画を教えている。あらためて思うのは時代にのまれてはいけない。高みに立ち歴史と社会を見わたさなければならない。変えてならないものも多いが、変えなければならないものも多い。

ダンテやシェイクスピアやチャプリンは色あせない。彼らは危機の時代に現われ警鐘を鳴らした。ところが人類は宗教であれ哲学であれ政治学であれ思考パターンを変えない。勝敗を決めるゲームのノリでしか考えない。誤解しないでほしい。はじめにあったのは理性ではない。はじめにあったのは生命である。

岩崎　明子

私は、1976年に豊かな自然とシスターの存在に魅かれてこの短大に入学しました。その後、1999年から現在に至るまで非常勤、常勤の教員として24年間の長きにわたって働く恵みを頂きました。2006年からの16年間ではゼミ担当教員として授業やゼミ合宿などを通して学生と親密な交流が出来、多くのイベント活動（スポーツ・デー、All English Day、クリスマス会、SJ祭、寮祭等）でのCreativeでEnergeticな先生や学生たちの姿も忘れ難い思い出です。私のほぼ半生の時間を共有くださった皆様には感謝と、友人・同僚・何より教育者として至らなかった点を深謝しつつ、これからも皆様のご活躍とお幸せを心よりお祈りいたします。

50周年記念　専任教員からのメッセージ

永野　良博　本学が英語科単科の組織として50周年を迎えられたのは、英語教育に加え幅広い教養と専門性を培う教育があり、地域社会の国際化やそこでの多文化共生を目指す活動等の豊かな広がりがあったからだと思います。それらを支えてくれた在学生、卒業生に深く感謝いたします。

平野　幸治　人生の意味を考える時とは、「人生」という言葉も知らぬ青春か、色々あったなと改めて振返る年代か、自身と異なる生き方をした人を見知った時だろう。短期大学から短期大学部となり、50周年を迎えて、役割を終えようとしています。短期大学は記憶の中に色褪せずあり続け、懐かしく、喜ばしく、そして切ない。

近藤　佐智子　本学に勤務して22年目、ここまで支えてくださった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。今年は特に卒業生の皆さんがキャンパスを訪問してくださる機会が多く、軽井沢での合宿、スポーツデイ、All English Day、ハロウィーン行進のことなど懐かしく思い出しています。皆さんのホームカミングを歓迎いたします!

丹木　博一　教育は種まきに喩えられます。50年間蒔かれ続けた種は、たとえ学校が無くなっても、皆さんのうちで芽を出し、大きく育って実を結び、やがて皆さん自身の成長と一体のものになるはずです。皆さんのご活躍を通して、その種がさらに多くの人々へと手渡されていくことを楽しみにしています。

森下　園　本学ソフィア会は卒業後25・40周年を祝う記念式典の開催、2004年開始の同窓生による輪講への交通費補助など本学と同窓生をつないできましたが、同窓生同士をつなぐ役割は今後も続きます。本学10期生として教員として、ソフィア会運営へのご協力を同窓生の皆さまにお願いすることで、記念のメッセージと致します。

宮崎　幸江　今年の学園祭には多くの卒業生が秦野キャンパスを訪れ、あちこちで懐かしい出会いが繰り広げられていました。残念ながらあと数年で短期大学部はその役目を終えますが、短大時代の思い出や友情がこれからも皆様の人生を豊かにしてくれることをお祈りしています。

狩野　晶子　もうすぐクリスマス。秦野キャンパスでは馬小屋や各所の飾りつけと中庭のツリーのライトアップが始まり、上智らしさを最も感じる季節です。卒業生の皆さまの短大の学生生活でのたくさんの思い出が、輝きと温かさに満ちたものでありますように願っています。

Chris Oliver　To students, current and past, and all those who have otherwise been a part of and contributed to the SJC/SUJCD community over the years, I would like to express my deepest gratitude for your having made this school such a wonderful place to teach. My life has been greatly enriched by the experience.

神谷　雅仁　私にとって「上短生」を表す言葉は「真面目さ」です。授業の受け方を見ても、課題の取り組み方を見ても、そして何より自分との向き合い方を見ても、とにかく「真面目に学生をやる」のが上短生の美学です。在学生の皆さんはもちろんですが、卒業生の皆さんも現在自分が生きている環境の中で、自分を偽らず、精一杯、真面目に生きていますか。

杉村　美佳　私の学生時代も皆がボランティアやサークル活動等に熱心に取り組み、上智短大を創ってきましたが、こうした伝統が受け継がれて今日があると思います。これまで本学を築き上げ支えてくださった卒業生の皆さまに感謝申し上げるとともに、本学で培った知恵と精神でそれぞれの道を切り拓いていかれることを願っています。

小林　宏子　私の短大時代は、スポーツデイがあり先生方を交えた競技もあり楽しかったです。後に教員になった頃にはゼミ対抗の綱引き大会になりましたが、知性も身体も鍛える全人教育の懐かしい思い出です。本学と共に歩めた日々に感謝しています。

Thomas Varkey　When I think of Sophia University Junior College students, the first thing that comes to my mind is a quote from Martin Luther King Jr., “Everyone can be great, because everyone can serve”. It's highly appreciated service-learning program offers students an opportunity to practice its spirit of education “For Others, With Others” while being a student. I salute all our graduates for continuing your outstanding service to the society.

Maria Lupas　We came to campus from very different places, but we have been lucky to spend time on this beautiful, green hill overlooking the city and crowned with a view of Mount Fuji. It is an honor to be teaching in this 50th anniversary year. Allow me to express my gratitude and greetings to colleagues and students past and present.

Bradley Irwin　It is said that first impressions are the most lasting. My first impression of the students here was truly heartwarming. Your smiles, eagerness to learn, and genuine kindness stood out immediately. Every day I come to this campus I'm reminded of that initial feeling. Let's cherish and build upon these positive connections, ensuring we always make others feel welcome and valued with our words and actions.

Timothy Gould元准教授は、2006年から17年間にわたり上智大学短期大学部で教鞭を執られ、ご家庭の事情により2022年度末を持って退職、アメリカ合衆国に帰国された。Gould元准教授より、在学生、卒業生、教職員宛にメッセージをいただいた。

Being a faculty member of Sophia University Junior College Division has been one of the great joys of my life, but sadly my time here has come to an end, and I am returning to the United States for family reasons. I have such fond memories of the students, faculty, and staff here that I cannot begin to express my gratitude for the many years of support and friendship I have received from everyone.

The students that I have taught at SUJCD have always been, and continue to be, a special source of happiness for me. For seventeen years, I never tired of going into the classroom and finding groups of students who were always eager to learn, participate, and grow with each other. I have watched with pride as many of my students have graduated and gone on to live out the dreams they expressed when they were students, and this is all a teacher can ask for.

The staff at Jimu Center has worked so hard to make my work life in Japan as smooth as possible by helping me with the many, many things that I didn't understand in Japanese. Whenever I went into the office, they were always ready and willing to help, and even though I think we often couldn't understand each other perfectly, I always felt warm and welcome there. It is so rare to see such a dedicated staff that works so well together, and they always know everything!

Finally, the colleagues and friends I have worked and taught with for my time here have enriched my life immeasurably. We have been talking and meeting and planning together for so long, and they have been such a fundamental part of the fabric of my life that it's hard for me to imagine, and sad, that I won't be meeting them every day to discuss all the things that are happening in the world and at Tandai.

So with that, let me wish you all a fond farewell with hopes that our paths will cross again one day in the future.

Best wishes,

Tim

上智大学短期大学部 学生募集停止について

本学ホームページおよび2023年4月19日付文書で通知したとおり、学校法人上智学院は、上智大学短期大学部の学生募集を2025年度以降停止することを決定した。

上智大学短期大学部は、1973年4月に上智短期大学として開学し、以来50年間、高等教育機関としての役割を果たしてきた。「For Others, With Others（他者のために、他者とともに）」の教育の精神のもと、高い英語力、幅広い教養力、深い専門力をもち、社会に貢献できる1万2千人を超える卒業生を輩出している。

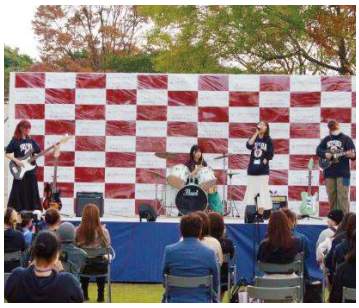
しかしながら、18歳人口の減少、女子の共学・四年制大学志向など、近年の社会状況の変化による影響は大きく、またコロナ禍以降、急激に志願者が減少し、大幅な入学定員割れが続いたため、今回の結論に至った。これまでの本学の教育・研究へのご理解とご支援に感謝申し上げるとともに、事情をご賢察いただき、何卒ご理解賜りたい。

2024年度入学生を含む全ての在学生に対する教育、進路支援は、これまでと同様に万全を期し、卒業後の証明書発行等、ソフィア会（同窓会）の活動についても、支障のない支援体制を整えていく。

2023年度　SJ祭

2023年度SJ祭を終えて

SJ祭実行委員会顧問　森下　園



第46回SJ祭を10月28日(土)に開催しました。ステージ企画ではカラオケ大会、ビンゴ大会、ゼミ別対抗クイズ大会、ダンスパフォーマンス、軽音サークルの演奏などがあり、秦野市長の高橋昌和さまからはご挨拶にて温かいお言葉をいただきました。1号館前では3台のキッチンカーが並び、食事やステージを楽しむ来場者で中庭は賑わいました。教室ではSLセンター主催ハロウィンイベント、和サークルのお茶会、ラムネやパンの販売などがありました。同日開催のルビー祝・銀祝記念式典では上智学院理事長サリ・アガスティン師、上智学院元理事長・本学元学長髙祖敏明師、本学教員トマス・ヴァルキー師の共同司式による感謝のミサが行われ、学長の山本浩先生より祝状が授与されました。また同窓生ホームカミングの会場は懐かしい顔との再会の場となりました。概算で300人以上の来場がありました。春学期に不在であった森下にかわりSJ祭実行委員会顧問を引き受けて下さった小林宏子先生、実行委員を支えてくださった教職員スタッフの皆様に感謝申し上げます。

SJ祭実行委員長・副委員長からのコメント

SJ祭実行委員長　片山　智理

今年で本学が創立50周年を迎えたこと、また、学生募集が来年度を最後に停止されることを踏まえて決定されたSJ祭テーマは「The best is here ～最高傑作をここに～」。二年次生は進路選択、一年次生は慣れない学生生活と並行して数多くの業務をこなし、各々が大変な状況でしたが、このテーマを実現すべく皆で助け合いながら準備を進めてきました。秦野市内のパン屋さん四店舗のパン販売、ソフィアパーカー販売やステージ企画は大成功をおさめ、一年前から地道に積み重ねてきた努力が実を結んだ嬉しい日でした。各委員が準備に尽力したSJ祭に来場者の方々のSJ祭を楽しんでいる姿が重なることで、まさに当日、最高傑作は完成したと思います。SJ祭を支えてくださった教職員の皆様、ご協賛企業と団体の皆様、本当にありがとうございました。

SJ祭副実行委員長　甲斐崎　彩音

木々が色づき始め、絵のような景色が秦野キャンパスに広がるなか、4年ぶりの完全対面形式でSJ祭の幕が上がりました。SJ祭実行委員を始め、学生が一丸となって「最高傑作」となるように準備を進めてまいりました。私は準備を進めていくなかで、SJ祭は本学関係者のみならず、近隣の方々からも愛されてきた大学祭なのだと、実感いたしました。2024年度で学生募集が停止されることを心から残念に思ってくださる地元の方々の存在も印象に残りました。惜しまれつつも今年度のSJ祭は、無事に幕を下ろすことができました。本学学生、教職員の皆さま、ご協賛企業に謝意を表するとともに、SJ祭に足を運んでいただいたすべての皆さまに感謝申し上げます。

2022年度　グッドティーチング賞

2022年度グッドティーチング賞にMaria Lupas准教授と廣重聖佐子非常勤講師が選出された。

グッドティーチング賞は、教育実践に顕著な成果をあげた教員に対し、その功績を表彰する制度で、学生による授業評価アンケート結果も選考基準の一つとなる。

Maria Lupas
准教授

廣重　聖佐子
非常勤講師

【受賞したLupas准教授からコメントをいただいた。】

I would like to thank my inspiring colleagues and the patient students at Sophia University Junior College Division for this distinguished award. The year 2022 continued some of the transformations in teaching and learning that began in 2020. In the early months of the pandemic the small size of our faculty allowed us to meet regularly with President Yamamoto to implement remote teaching. First, Zoom was introduced, and then the junior college acquired professional-quality sound systems for all the classrooms. This allowed for hybrid flexible teaching which is still going on now in 2023 and which has been extended to other emergency situations beyond the pandemic. Adapting to this imposed digital transformation has not been easy, but some resources have helped: online common rooms for teachers were organized at the junior college for faculty development. Academic conferences and other professional groups for teachers offered chances for professional development online. It is also a relief to see most of the students back in the classroom. Their motivation, kindness, and respect make me feel like a teacher.

Maria Lupas

Alumnae
http://sjc-alumnae.org/
ソフィア会

上智大学短期大学部
ソフィア会HP

2023年度 9期 ルビー祝 & 24期 銀祝 式典 & ホームカミング2023 10月28日

SJ祭で賑わう秦野キャンパスにて、感謝のミサ、ルビー祝・銀祝式典及び祝賀会を開催しました。同時に「ホームカミング2023」と1期生主催による「1期生の集い」も催され、笑顔あふれる一日となりました。詳しくはHPでもご覧ください。

開会ごあいさつ

上智大学短期大学部ソフィア会会長　平野　由紀子

ご来賓の皆さま、本日はご臨席いただきありがとうございます。卒業40周年を迎えられたルビー祝の9期生のみなさま、卒業25周年の銀祝の24期のみなさま　おめでとうございます。久しぶりに、あるいは卒業して初めて秦野を訪れて、在学時代と比べて、ずいぶん変わったところに驚かれた方も多いでしょう。

形あるものは変化しますが、変わらないものがあります。私たちが受けた教育、学んだ教養・知識。恩師とのつながり。友達との思い出。ご周知のとおり、私たちの母校はあと数年で形を存続しなくなりますが、この、いつまでも変わらないもの、同窓生のつながりはこれからも皆様と共に、さらに繋げ続けていきたいと思います。

50年前の創立時に入学した1期生は2年後に卒業50周年の金祝を迎えます。

ルビー祝の10年後、銀祝の25年後、そして来年4月に入学する最後の短期大学部の学生が卒業50周年を迎えるまで、私たちソフィア会は、同窓会の絆を深めていくお手伝いをして参ります。今後のソフィア会活動への一層のご協力をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

ルビー祝　ごあいさつ

9期生代表　鈴木　眞紀子

「笑っていましょう」

卒業して四十年たちました。わたしは脊柱管狭窄症になり、四年前に手術を受けました。今は両脚が痺れ、杖を使いヘルプマークを付ける身になりました。でも歩けます。それはとてもいいことです。この学校で学んだので、このように考えられる人間になりました。全然くよくよしていません。

さて、海亀の話をします。わたしは仕事帰りに「すみだ水族館」に寄って海亀を見に行きます。この水族館では小笠原諸島で生まれた亀を一年育て、その後、小笠原の海に戻すのです。実際に海に戻す様子を「X」で見ました。亀、大丈夫？本物の海でやっていけるの？　とても心配した。でも亀は嬉しそうにひらひらと平気で泳いで行った。あの姿は、わたしたちだったのかもしれません。

バリー神父様は、卒業証書に「笑っていなさい」と書いて下さいました。卒業後、笑っていられない時も当然あった。でもこの先も、やっぱり笑って生きていきたいと思うのです。

銀祝　ごあいさつ

24期生代表　西村　尚子（Dクラス　旧姓：田村）

本日は、ルビー祝、銀祝を迎えられた皆様、誠におめでとうございます。先生方におかれましては、ご多用の中お集まりいただき、式典の開催をありがとうございます。また、ソフィア会役員の皆様、このお祝いの日に向けて趣向を凝らし準備くださいました事、心よりお礼申し上げます。

1998年の卒業以来、上智短大を訪れたのは今日が初めてとなります。同級生から銀祝の連絡を受けて「参加してみよう♪」と盛り上がり、スケジュールが合う仲間3人で再び秦野キャンパスの地を踏むことができました。

学生時代にず～っと先のことだと傍観していた銀祝がついに自身にやってきて時が経過する速さを実感しています。時代の変化と共に上智短大の在り方も形は変わっていきますが、私たちが胸に抱き続ける限り“永遠不滅”です。

卒業生としての誇りと感謝を込めて代表スピーチとさせていただきます。皆様、このあとの祝賀パーティーを楽しみましょう！

ホームカミング2023

もう一度母校を訪れたい、という想いはたくさんの卒業生に共有されたようです。事前に161名ものお申込みがあり、当日も家族連れの方を含めて120名ほどが1号館3階に集い、大盛況のホームカミング会場となりました。同期、恩師との再会で写真撮影や創立50周年ソフィア会記念DVDの上映、ソフィアグッズ、SJ祭パーカー購入など秦野キャンパスを楽しんでいただきました。

また、2階では1期生主催の「1期生の集い」も催され、50年前の創立当初の学生生活にお話が弾んだのではないでしょうか。

2023年度　総会報告

上智大学短期大学部ソフィア会（同窓会）
2022年度　決算報告
（2022年4月1日～ 2023年3月31日）2023年3月31日現在

【収入の部】　（単位：円）

費目	金額	備考
前年度繰越金	28,939,806	
2022年度収入		
同窓会会費	3,280,000	2022年度入学者（@20,000 x 164人）
総会及び銀祝参加費	114,000	銀祝参加費、祝状代
寄付金預かり	33,000	バリー賞募金、被災者学生支援金
利息	254,734	上智学院預り金利息、普通預金利息
（2022年度収入小計）	3,681,734	
合計	32,621,540	

【支出の部】　（単位：円）

費目	金額	備考
パーティー代その他	194,466	ホームカミング及びルビー祝・銀祝ミネラルウォーター、花代等
通信費	210,878	同窓会事務室通信費（インターネット料金等）
交通費	41,184	役員交通費
文具及び消耗品費	15,168	文具代、コピー代等 卒業生配布クリアファイル代、同窓会案内チラシ代など
会議費	60,730	オンライン会議ツール代（Zoom）他
郵送費	42,784	会員あて郵便発送費、郵便代、宅配便等
広告宣伝費	278,491	短大ソフィア会HP維持管理費、同窓会紹介ビデオ制作費等
慶弔費	0	
交際費	0	
送金手数料	5,291	
寄付金	900,000	2022年度奨学金（90万円）
（2022年度支出小計）	1,748,992	
次年度繰越金	30,872,548	
合計	32,621,540	

2023年度の総会もHPへの議案掲載とさせていただきました。

- 2022年度ジェラルド・バリー賞　2023年3月10日卒業式にて、清水希来々さんが受賞されました。（コメント一部抜粋）

  上智大学短期大学部で過ごした二年間を振り返れば、非常に充実した時間だったと思います。講義や学内外の活動、また先生や学友たちとの対話を通して得た多くの学びや気づきは私にとってかけがえのない財産であると同時に、私が成し遂げたい目標に出会うきっかけとなりました。さらに学びを深めるために編入学試験を志し、勉学に励みましたが決して楽な毎日ではなく、日に日に大きくなる不安との葛藤の連続でした。しかし、不安な日々を乗り越え、実のある学生生活を送ることができたのは、紛れもなく諸先生方、職員の皆様、学友たち、家族の支えのおかげです。多くの方々の支え、そして「夢に向かって努力する」という素敵な経験をさせてくれた家族に心から感謝しています。

- 2023年度も総額90万円の奨学金を授与いたしました。充実した学生生活の一助となるようにと願っています。同窓会からの奨学金授与の機会は今年度で終了となります。

FACULTY VOICE サバティカル（研究休暇）を終えて

2022年度秋学期　サバティカル報告

准教授　杉村　美佳

サバティカル期間中には近年の研究テーマである日米の新教育運動研究に従事した他、以前から関心をもっていたアメリカ合衆国サンディエゴ市のハイ・テック・ハイ小・中・高等学校（High Tech High、以下、HTHと略記）の学校見学や教員研修に参加する機会を得ました。HTHは、ディーパー・ラーニング（Deeper Learning）の実践校として有名で、年間約５千人もの見学者が世界中から訪れています。ディーパー・ラーニングとは「生徒中心の学習法」とも呼ばれ、探究型でプロジェクト型の学習を中核としています。とりわけ問題解決学習（PBL）に力を入れており、生徒たちは約２か月かけて各自のプロジェクトの探究を行っています。

ディーパー・ラーニングを導入している学校は裕福な地区に多く、黒人やラテンアメリカ系の生徒は享受する上で不利な立場にあると指摘されていますが、HTHの生徒は6365名中、ラテンアメリカ系43.2%、白人27.5%、黒人7.3%、ネイティブアメリカン4.4%であり、カリフォルニア州立大学等への進学率も州平均よりも高く、人種による教育格差の是正にも成果を上げています。

HTHでは11年生になると高校卒業の要件になっている１か月間のインターンシップへの参加が必須となっています。これはプロジェクト学習の一環であり、就業経験を積むとともにコミュニティの一員であることを実感することを目的としています。学校見学の際に生徒の代表として参加してくれた男子生徒もインターンシップの一環で学校紹介を行ってくれました。彼はグループで２か月かけて行ったHeritage Projectというプロジェクト学習について紹介してくれました。このプロジェクトでは、家族の歴史や文化を学ぶことを目的に家族のDNAを採取し、家系図作りを行ったそうで、こうした理科と社会の教科横断型学習を通して批判的思考力や問題解決力が身についたと話してくれました。プロジェクトにはこの他、「地域の波及効果」、「地域の二面性」、「食糧問題」、「地域のごみ問題」等、多種多様なテーマがあるそうです。

またハイ・テック・ハイ大学院の研修では、25人ほどの教員が参加し、プロジェクト学習の振り返りや評価方法に関する議論を行っていました。HTHでは生徒たちを期末試験の得点で判断するのではなく、彼らが一年かけて築いた実績やプロジェクト学習のプレゼンテーション、文章、芸術作品などで評価します。教師たちは評価そのものよりもフィードバックに力を入れており、また評価に生徒自身による自己評価や生徒同士の評価も取り入れることで生徒の成長を促していると教わりました。

HTHの見学や研修を通して、こうしたプロジェクト学習中心の教育が日本の教育を変革し、教育格差を是正する一助となりうるかという問いをもち、新たな研究課題を得ることができました。このような貴重な学びの機会をいただきましたことに深く感謝し、今後の研究と教育活動に還元して参りたいと思います。

2023年度春学期　サバティカル報告

教授　森下　園

2023年度春学期にサバティカル（研究休暇）をいただきました。主に３つの仕事ができました。第一に、これまで読み込めなかった研究書・論文の読み込み、第二に、所属する研究会で出版予定の論文集原稿の執筆、第三に学会・研究会の参加です。

研究書は英国中世の社会史・教会史の本のほか、AmazonのKindle（電子書籍）で購入した隠修女関連の本や日本史の本を読むことができました。加齢のためか視力が落ちてきて文字の細い活字本を読むのが苦しくなっていましたが、Kindleで読める西欧中世史の書籍が増えてきており、あらためて自費で買いなおしました。日本語の研究書はなぜか電子化されていないものが多いのですが、今後に期待をしています。研究以外にニュースとなっていた生成AIについて調べ、実際に使ってみて教育現場でどう活用するのか考える時間もありました。

論文は、所属する西欧中世史研究会で中世のコミュニケーションをテーマに日本史・東洋史も交えた論文集の企画に加えていただくことになりました。のんびり構えていたら締め切り間際に調べなおしたい点がでてきて慌てました。メインの史料とした『隠修女の手引き（Ancrene Wisse）』は様々なバージョンがあり校訂本を並べて相互参照しましたが、章やスタイルが異なる中英語の文章から目的の箇所を見つけ出すのにかなり目を酷使しました。こういう時、電子化されていれば検索機能が使えるのにと自分の読解力のなさを棚にあげて恨めしく思いました。本来はオリジナルの写本と照合して調べるべきでしたが、それは今後の課題としました。

学会は５月に名古屋での日本西洋史学会に参加しましたが、全国的に暑い中で名古屋は特に酷暑でした。久しぶりの対面での学会報告やシンポジウムに刺激を受けました。８月には第11回日韓西洋中世史研究集会がソウルの中央大学校でありました。３年に１度開催で本来は昨年に実施予定でしたがCovid-19の問題もあり、１年遅れの開催となりました。今回は発表・司会担当ではなく記録係としての参加となりました。韓国でも若手の研究者は欧米の大学で学位を取る人が増えており、現地での調査を交えた研究報告が増えたという印象です。情報交換したところ、生成AIの使用について頭が痛いのは同じということでした。最終日のディナーでは同じテーブルの女性研究者が日本の漫画が面白いと話しており、NHKでドラマ化されているので話がはずみました。

自分のペースで仕事をすすめることができ、また介護が必要な家族との時間もとれて充実したサバティカルでした。閉学が決まったにもかかわらずこのような機会をいただけたことに深く感謝いたします。

2022年度　第49回　学位授与式

第49回上智大学短期大学部学位授与式が2023年3月10日（金）に挙行され、156名が卒業した。新型コロナウイルス感染防止のため、午前と午後の2部制で実施されたが、3年ぶりに学生1名につき保証人1名の方にも入場いただいた。YouTubeでのライブ配信は継続された。

学長は式辞の中で次のように述べ、卒業生を祝福した。「上智学院は、学生・生徒が『他者のために、他者とともに（For Others, With Others）』という精神を身に付けて卒業するよう、教育を行っている。皆さんには広い大きな世界で、他者と関わりを持ちながら生き、他者のことを考え、他者に手を差し伸べる、他者のために他者とともにある人になってほしい。皆さんは2年間の勉学で、何が問題であるかを発見し、発見した問題をどのように解決したらよいのか考えた。それを繰り返すことで、物事を深く考察する姿勢を身に付けた。今後、様々な変化や困難に出会い、人生の大きな岐路に差し掛かっても、自分でよく考え、判断し、自分の進むべき道を見つけてほしい。皆さんの前途が輝かしいものになりますように。」

2023年度9月学位授与式は2023年9月19日（火）にハイフレックス形式で執り行われ、7名が卒業した。

2023年度　第51回　入学式

第51回入学式が2023年4月3日（月）に執り行われ、115名の新入生が入学した。

「宣誓」では、新入生代表が大学生活への抱負を以下のように述べた。

新入生代表（午前の部）「私たちの高校生活は新型コロナウイルスの緊急事態宣言から始まり、様々な行事の中止を経験した。当たり前だと思っていた環境や生活を振り返り、感謝する機会が得られた。上智大学短期大学部の教育の精神である「他者のために、他者とともに」に基づき、他者を思い行動できるよう積極的に学び、国際的知識を身につけ、高め合いたい。キリスト教ヒューマニズムの精神に則し、教養や知識を学び、国際的かつ柔軟な思考力を修得すべく、学業に精進することを誓う。」

新入生代表（午後の部）「私たちの高校3年間は新型コロナウイルスにより人との交流が減ったが、代わりに自分を見つめ直す時間ができた。当たり前の日常に感謝し、先生方や仲間との出会いを大切にしながら、失敗を恐れずに新しいことに挑戦し続けたい。上智大学短期大学部の教育の精神に則り、キリスト教ヒューマニズムのもと、幅広い教養と国際性を修得すべく学業に精進することを誓う。」

1年次生にユニバーサルマナー検定を実施

2022年度より、本学では日本ユニバーサルマナー協会が認定する「ユニバーサルマナー検定3級 e-learning版」を学生に受講してもらっている。初年度は秋学期に全学生へ、2023年度は新入生に対して4月から5月にかけて実施した。この検定は他者との向き合い方やコミュニケーション方法を学ぶ入門講座で、修了すると認定証を取得できる仕組みになっている。今年度は85.2%の新入生が3級の認定証を獲得した。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGsで掲げている「誰も取り残されない社会」の実現に向けて行動できる人を育成するため、上智学院の中長期計画「グランド・レイアウト3.0（2023～ 2030 年度）」では多様性を重点項目として明記している。本学に入学する全ての学生がユニバーサルマナーを身に着け、これから学ぶ学問や出会う友人との交流の中で思考を深め、「他者のために、他者とともに」生きる人となることを願っている。

上智大学短期大学部 2022年度決算・2023年度予算

（単位：千円）

		科　目	2022年度決算	2023年度予算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	371,558	295,315
		手数料	5,160	8,028
		寄付金	900	0
		経常費等補助金	82,661	82,662
		（国庫補助金）	(82,610)	(82,610)
		（地方公共団体補助金）	(51)	(52)
		付随事業収入	473	0
		雑収入	29,690	2,308
		教育活動収入計	490,442	388,313
	事業活動支出の部	人件費	407,562	358,781
		（退職給与引当金繰入額）	(278,405)	(3,531)
		教育研究経費	278,405	165,508
		（減価償却額）	(48,789)	(48,471)
		管理経費	61,793	62,369
		（減価償却額）	(6,235)	(5,277)
		教育活動支出計	747,760	586,658
教育活動収支差額			△ 257,318	△ 198,345
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	5,383	0
		その他の教育活動外収入	0	0
		教育活動外収入計	5,383	0
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0
		教育活動外支出計	0	0
教育活動外収支差額			5,383	0
経常収支差額			△ 251,935	△ 198,345
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0
		その他の特別収入	153	46
		（施設設備寄付金）	(100)	(0)
		（現物寄付）	(53)	(46)
		（施設設備補助金）	(0)	(0)
		特別収入計	153	46
	事業活動支出の部	資産処分差額	947	730
		その他の特別支出	13	0
		特別支出計	960	730
特別収支差額			△ 807	△ 684
〔予備費〕				0
基本金組入前当年度収支差額			△ 252,742	△ 199,029
基本金組入額合計			△ 36,031	△ 5,093
当年度収支差額			△ 288,773	△ 204,122

2024年度　上智大学短期大学部学生納付金

（単位：円）

	新　入　生（2024年度入学者）	在　学　生（2023年度入学者）	摘　要
入学金	200,000	－	入学時のみ
在籍料	60,000	60,000	年額
授業料	707,000	707,000	年額
教育充実費	180,000	180,000	年額
小　計	1,147,000	947,000	
同窓会積立金	－	20,000	2年次徴収
英語力テスト受験料	9,390	3,130	1年次年3回、2年次年1回
学生教育研究災害傷害保険料	1,400	－	保険期間2年（※）
小　計	10,790	23,130	
合　計	1,157,790	970,130	

（※）修業年限を超えて在学する場合は、1年毎に800円の納入が必要です。

入試日程のご案内

3ページ目に記載したとおり、本学は学生募集を2024年度募集を最後に、2025年度以降停止いたします。今回実施の入学試験が、最後となります。

短期大学部では入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することを目的とし、多様な入試を実施しています。

これから実施する入試は右記のとおりです。詳しくは入試要項をご確認ください。

大学案内のご請求・入学願書のダウンロードは、本学HPトップページより「入試情報」をご覧ください。

上智大学短期大学部HP

種　別	募集人数	出願期間	試 験 日
一般選抜A日程 ※特待生奨学金対象	55	1月4日（木）～1月24日（水）（消印有効） 1月25日（木）（短大窓口受付）(注1)	2月1日（木）
一般選抜B日程 （英語外部検定試験活用型）	25	2月2日（金）～2月22日（木）（消印有効） 2月26日（月）（短大窓口受付）(注1)	2月28日（水）
一般選抜C日程 （ディスカッション型）	20	2月22日（木）～3月4日（月）（消印有効） 3月5日（火）・3月6日（水）（短大窓口受付）(注1)	3月11日（月）
総合型選抜 （課題文利用方式）	5	1月4日（木）～3月9日（土） a～eの出願期間があります(注2)	[a]1/12[b]2/9[c]2/16 [d]3/1 [e]3/14
総合型選抜 （英検･GTEC･TEAP等利用方式C）	10	1月4日（木）～3月9日（土） Ⅰ～Ⅴの出願期間があります(注2)	[Ⅰ]1/12[Ⅱ]2/9[Ⅲ]2/16 [Ⅳ]3/1[Ⅴ]3/14
総合型選抜 （英検･GTEC･TEAP等利用方式D）	6	1月9日（火）～3月2日（土） ア～ウの出願期間があります(注2)	[ア]1/19 [イ]2/22 [ウ]3/8

（注1）一般選抜A・B・C日程は、上智大学短期大学部（秦野キャンパス）で窓口受付を行います。
（注2）総合型選抜の課題文利用方式（a～e）、英検・GTEC・TEAP等利用方式C（Ⅰ～Ⅴ）、英検・GTEC・TEAP等利用方式D（ア～ウ）の日程の詳細は本学ホームページでご確認ください。